第２回　植水小学校・植水中学校　学校運営協議会　議事録

１　日　　時　　令和６年１０月１７日（木）　１０：００～１２：００

２　場　　所　　植水小学校 視聴覚室

３　参 加 者　　略

４　内　　容　（１）中学校長あいさつ
（２）学校運営協議会長あいさつ
（３）議事　①これまでの各学校の実践報告について
ⅰ）植水小学校　　ⅱ）植水中学校
②意見交換
（４）熟議
「植水っ子の育成に向けた地域と学校のかかわりについて」
（５）その他連絡事項
（６）小学校長あいさつ

５　議　　事　①各学校の実践報告について（○委員より　●学校より）

小学校より
・２学期の学校生活について
（校外学習・修学旅行・地域行事・田植え体験等）
・生徒指導・教育相談関係の報告について
（いじめ認知件数　長欠傾向　心の生活のアンケートの児童の事態について）
・研修の報告について（令和６年度全国学力・学習調査結果）
・植水小児童の治療状況について
・給食試食会について
・防災フェスティバル、チャレンジスクールについて

中学校より
・学校生活の様子について
授業（音楽、総合的な学習の時間、ＧＳ、保健体育、理科、数学等）
行事（西区避難所運営訓練、未来くるワーク体験、生徒総会）
部活動（各部活動の様子について）
・生徒指導、教育相談について
（いじめ認知件数　長欠傾向　Sola るーむの設置　心と生活のアンケートの生徒の状況について）
・朝学習における数学の学習活動の継続的取組について
・生徒に合わせた個別最適な学習の充実について
・学習について
（全国学習状況調査の結果、スタディサプリの取組）

・小・中・高の連続性をもった教育の取組について
・今後の予定について

②質問意見等（○委員より　●学校より）

○いじめの認知件数について。認知とはどのようなものを認知としているのか。

●被害者の心身的に苦痛を感じているとき、いやな思いをしていることを学校側が聞き取り、事実を確認し、認知としている。

○不登校について。学校に行かない児童生徒がいる。その子が得意な教科だけある日だけ行くことがある。それでもいいと思うが、学校はどう考えるのか

●中学校としても、部活だけ参加する生徒もいる。その子の状態によって登校する。学校は楽しいよというところを伝えていくことが必要と考える。無理にでも登校するように引っ張っていくという考えはない。

●小学校としても少しでもいいから学校に来てもらいたい思いはある。教員が受け身でいるのではなく、能動的に動けるようにしていきたい。学校に児童がいるときに児童とたくさんかかわるとともに保護者とも連携していきたい。

○いじめの解消とは何をもって解消としているのか。治療状況について、数値が示されたがその数値は全国的に見てどうなのか。中学校での不登校数が、１２人とあったがそれは、人数的に見てみると多いのかどうなのか。学力調査について、国語に関する結果が小学校では平均以下だが中学校の数値は平均以上だった。このことについては受けた学年によって違うのか、どうなのか。

●いじめの解消とは、３カ月間見守り、その後、被害者に何もなかったことを確認してから解消としている。視力に関しては、視力については疾病通知の返却状況が減ってきているのが影響している。学力調査については、小中で連携していく必要がある。学力の基礎基本的事項を身につけさせていかなくてはならないと考えている。

●学力調査の成果については、小学校６年生の時の数値と中学３年生の時の数値を比べられるといいのではないかと考える。長期欠席児童生徒の出現率については、以前、統計的に見てみても各クラス２人程度はいる割合だったと記憶している。そう考えると長期欠席児童生徒数については、割合では他の学校と同等であると言えるのではないか。

６　熟　　議　　「植水っ子の育成に向けた地域と学校のかかわりについて」（○委員より　●学校より）

【小学校】

○不登校の課題については、公立と私立によって違いがあるのではないか。
親が行かせようという思いがあまりないのではないか。公立の小学校と中学校については、限界があるのではないか。

○昔は、地域が子どもたちを指導することが多くあった。学校と協働して取り組むこともあった。学校とＰＴＡが一緒になって取り組むことがあった。地域とのかかわりが希薄になってきている。

○保護者と学校の境界がはっきりしてきている気がする。学校で子どもが教育を受ける、生活を受けることを塾に預ける感覚でいる親がいる。学校はサービス提供者ではない。地域のお祭りなどの行事においても、自分事として捉えていない家庭が多いのではないか。改めて、家庭に言うことも必要なのではないか。

○昔は、学校に甘える家庭が多かった。先生に相談することも多かった。今と昔の学校と保護者の考えに差がある。

○放課後、子どもたちがあいさつをしてくれる。つながりを絶やさない地域づくりをする

ことが大切である。

●地域と家庭のかかわりがないと学校はやっていけない。学校として何ができるのだろうと考えている。学校で学んだ子どもがよりよく変容する姿を地域と家庭に見てもらえることが大切であると考える。

○地域の自治会の加入率が大変少なくなってきている。子どもが少なくなってきている。地域と家庭とのつながりの難しさがある。

○就学前の子どもが児童センターを利用している。児童の話し方や説明する言葉を聞いているとうまく伝えられない場面がある。話す力等に課題があるのかもしれない。児童センターとしても地域の子どもや家庭に対して取り組めるものについて考えていきたい。

○本や言葉にふれる機会を増やしてはどうか。地域の施設に本を集める取組もやってみるのもいいのではないか。管理が難しいが。

○国語力が必要だと考える。

●母語が大切だと考える。母語を活用してから外国語に触れられることにすることが必要であると考える。

○文章に触れる機会として、地域での読み聞かせや高校とのかかわりを増やしていくのもいいのではないか。まずやってみるのもいいのではないか

○地域と子どもたちとの接点を増やしていきたい。大人が決めてそれを子どもが行うのではなく、子どもが主体となって運営できるような取組をしていきたい。

○昔は先生が親代わりだった。子どもが親のことをよく話していた。人間関係に深さがあった。今は、先生が忙しすぎる。子どもも忙しすぎる。人間関係の構築が必要である。

○地域と子どもたちのかかわりを大切にしていきたい。地域の祭りや地域の運動会に参加できるようになるといい。

【中学校】

○植水小学校、植水中学校と９年間同じメンバーであることはいい部分もあると思うが、人間関係が固定されてしまうなどの悪い部分もあると思う。メリットとデメリットを分析できたらいいのではないかと考える。

○メリットは、同じメンバーでいることで、同窓会をずっとやるほど仲が良くなる。

○川越の私立の高校に進学した子どもを知っているが、友だちとの交流がなく、帰ってきて話す相手がいないので、孤独なのではないかと思うことがある。

○中学校の時に、仲間からはずれていた子でも、大人になってから、同窓会を行う時に声をかけている。

○昔のトラブルを引きずっているような様子が見られることもある。小さい頃のダメージが大きいのではないか。

○中学校で、新しい友だちを作るのに困っているようなことはないのか。

●転入生が来ることもほとんどなく、小学校から同じメンバーなので、新しい友だちを作るのに困っている様子はあまり見られない。同じメンバーで中学校に入学してくるので、入学後間もない時期でも落ち着いている様子が見られる。

○外国籍の子どもを、仲間はずれにしたり、うまく関われないような様子はあるのか。

●子どもたちなりの関わり方でかかわっている様子が見られる。仲間はずれにするようなことはあまりない。

○部活動で合同チームを組んで参加している話も聞くがそのようなことはあるのか。ある程度近い学校で組むことはできるのか。

●最近は、生徒の人数も少なくなってきているので、合同チームを組んで大会に出ているところも多い。人数が少ないところ同士で合同チームを組むので、必ずしも近い学校で組むわけではない。

〇部活動で合同チームを組むことができれば、新たな友だちを作る交流の場の一つになるのではないかと思う。

〇通学区域をもう少し工夫することができれば、複数の小学校から中学校に入学してくる形を作れるので、新しい友だち関係を広げることができるのではないかと思う。

〇通学区域については、教育委員会が決めているはずなので、通学区域を変えることは難しいと思う。

〇地域の清掃活動、避難所運営訓練など地域のイベントについて日程を合わせることができれば、となりの学校の子どもたちと交流する場になるのではないかと思う。

〇地域のイベントについては、主催している団体が異なるので、なかなか日程を合わせることが難しい。

●地域のイベントについては、チラシなどがあれば、学校で生徒に案内するこができる。案内できるものがあれば、学校にお知らせください。

次回　第３回　植水小・中学校運営協議会　令和７年２月５日（水）　場所　植水中学校